教協だより

東山梨教育協議会
第３号
事務局：若月　敬二郎
ＴＥＬ：３３－２６３５
ＦＡＸ：３３－３９４４
Ｍａｉｌ：kenkyu@e103.net

教育講演会のお知らせ

演題「困った子から困っている子へ
－ 子どものメンタルヘルスを支えるための理解と関わり －」



【講師】佐野　史和（さの　ふみかず）氏

山梨大学医学部小児科　学部内講師

山梨大学医学部小児科の佐野史和と申します。専門は小児神経学で、てんかんや神経発達症の診療を行うとともに、近年は子どもの心身の不調に関連する診療も行っています。

これまでの研究では、モデルマウスを用いた脳の働きに関する基礎研究から、小児てんかんや神経発達症におけるこころの問題や生活の質（QOL）に関する臨床研究まで、「脳」と「こころ」をつなぐ領域をテーマに取り組んできました。

「学校に行けない」という子どもの診療で出会うのは、「検査では異常がないのに症状があり困っている」子どもたちです。こうした状態は、単なる気持ちの問題ではなく、脳の働きや発達、そして日々の環境が重なり合って生まれています。言葉にならないこころの負担は、ときに頭痛や腹痛といった形であらわれることがあります。すなわち、体の症状は、その子なりの"困っているサイン"なのです。だからこそ、不登校を「学校に行けるかどうか」と見るのではなく、その子の中で何が起きているのかを大切にしたいと考えています。

私たち（小児科医）の目標はシンプルです。「すべての子どもが、身体的にも、精神的にも、社会的にも健やかに育ち、幸福に生きること」。そのために、大人に何ができるのか。そのヒントを、みなさんと一緒に考え続けられたらと思います。

年々、不登校者数が増加傾向にある中で、「不登校」という教育課題のみならず、子ども一人ひとりに対して私たち教職員がどのように向き合っていくべきなのか悩んでいる先生方も多いのではないでしょうか。

今回の講演会では、山梨大学医学部小児科の佐野史和先生をお招きします。「問題行動」に見える行動の背景にある心のメカニズムについてご説明いただき、具体的な関わり方、寄り添い方についてご講演いただきます。子どものメンタルヘルスを切り口に、医学・医療の視点から子ども理解や子どもとの関わり方について、ともに考える機会となることを願っています。

日時：8月6日（木） ※日直以外の全教協会員の参加をお願いします。

受　付：9：15～　開会：9：30

場　所：山梨市民会館 ホール

駐車場：山梨市民会館周辺

※駐車可能台数に限りがあります。1台4名以上の乗り合わせにご理解ご協力ください。

※同日13:30からは、第３回教育研究会（夏季学習会）となります。